

美術（中学校）

1 改訂の基本的な考え方

○中教審答申における成果と課題

(1) 成果

- ・図画工作科，美術科，芸術科（美術，工芸）においては，創造することの楽しさを感じるとともに思考・判断し表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること，生活の中の造形や美術の働き，美術文化に関心を持って，生涯ににわたり主体的に関わっていく態度を育むこと等に重点を置いて，その充実を図ってきた。

(2) 課題

- ・感性や想像力等を豊かに働かせて，思考・判断し，表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に関連させながら育成することや，生活を美しく豊かにする造形や美術の働き，美術文化についての実感的な理解を深め，生活や社会と豊かに関わる態度を育成すること等については，更なる充実が求められる。

○改訂の具体的な方向性

- ・感性や想像力を働かせて，表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成できるよう，内容の改善を図ること。また，生活を美しく豊かにする造形や美術の働き，美術文化についての理解を深める学習の充実を図ること。

2 改善・充実の具体的な事項

○教科の目標について

(1) 造形的な見方・考え方

- ・美術科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方。

(2) 具体的に育成することを目指す資質・能力

- ・「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理。（相互に関連させながら、各教科共通）

○学年の目標について

- ・第1学年と第2学年及び第3学年に分け，三つの柱に基づいて示している。

○内容について

(1) 表現領域

- ・「思考力、判断力、表現力等」と「技能」の観点で整理。

(2) 鑑賞領域

- ・「思考力、判断力、表現力等」の観点で整理。

(3) [共通事項] について

- ・「知識」の観点で整理。

(4) 各学年の内容の取扱いについて（新設）

- ・各学年の内容の取扱いを新たに示し，発達の特徴を考慮して，各学年における学習内容や題材に配する時間数を十分検討するとともに，「思考力、判断力、表現力等」を高めるために，言語活動の充実を図るようにする。

○学習指導について

- ・言語活動を「A表現」及び「B鑑賞」の指導において扱う。（現行は「B鑑賞」のみ）
- ・知的財産に関する取扱いの記載を充実し，創造性を尊重する態度を育成することや，こうした態度の育成が，美術文化の継承，発展，創造を支えていることへの理解につながるよう配慮することなどを明記。

3 移行措置について

- ・平成30年度から新学習指導要領によることができることとしている。
- ・新学習指導要領を先行実施する場合，評価の観点については，現行のものを用いる。